自分の自由を守るために

生徒指導主事　田中　紀夫

新型コロナウイルス感染拡大で、外出の自粛が求められた中、日常生活が突然奪われ、明日をも見通せなくなった４月スタート。今、世の中は、今までの概念が通用しない時代になろうとしている。このような多様な変化を求められる時には、得てして、他人と自分を比べようとする。それにより、他人を非難し、他を認め合う気持ちすら薄らいでしまうこともある。コロナ禍により、生きにくく、自由がないと感じている人は大勢いるのではないでしょうか?

そんな最中だからこそ、この本を読んで、私の想いも書いてみました。

「かさをささないシランさん」谷川　俊太郎とアムネスティ・インターナショナル作

〈あらすじ〉

ある時、ある場所で、ごく普通の若者が突然兵隊に逮捕されてしまいます。その理由は、雨の日に傘をささないというものでした。兵隊の隊長が叫びます。「皆と違うことを考える奴は敵だ」こうして、その若者シランは牢屋に叩き込まれてしまったのです。そして、話はそのシランさんの元へ世界から励ましの手紙が送られるという所で終わっています。

こんな馬鹿げたことが起こるとは、誰もが考えもしないだろう。しかし、現実には世界のどこかで、これと似たようなことが起きている。シランさんが他の人と違っていたのは「雨に濡れて歩くのが好きだった。」というそれだけなのだ。人は生まれつき一人一人違っている。顔が違うように考え方も、感じ方も皆違う。当たり前のことなのに、世の中では、ちょっと人と違うということで、いじめられたりすることがある。誰もが自分は自由でありたいと思う。しかし、それは好き勝手なことをしてよいということではない。わがままな行動や言葉は、周囲に迷惑をかけ、他の人の自由を奪ってしまうこともある。自分が自由であるためには、他者もまた自由でなければならない。他人の自由も守らなければならないと私は思う。

困難に立ち向かう

生徒会主任　佐藤　真平

日頃より生徒会活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。今年度は、新型コロナウィルス感染拡大の影響により噴煙祭の一般公開が中止となり、クラブ活動においても各種大会が中止または無観客での開催となりました。保護者のみなさまに生徒たちの活躍する姿を直接ご覧いただけなかったことを残念に思っています。

４月から5月にかけて生徒たちは学校に通いたくても通えない日々が続きました。学校再開後の行事も中止、規模の縮小を迫られる難しい１年でした。そのなかで生徒会役員は学校の臨時休業中もオンラインで会議を行うなど、生徒会活動を続けてきました。ある日の生徒会役員の「生徒会の活動を通して少しでも軽高生に学校にいることの喜びを感じてもらいたい」「不安な学校生活を少しでも充実させたい」ということばに、私たち職員が勇気をもらったことを思い出します。7月から8月へ順延して開催した噴煙祭では、様々な制限があるなか、生徒の一体感を生む、充実したものを作り上げてくれました。困難な状況でもくじけず、前を向き続ける姿は本当に立派でした。

今後も難しい状況が続いていくことが予想されますが、前を向いて頑張る生徒たちを支援していきたいと思っています。

編集後記

ご多忙中、原稿をお寄せいただいた皆さま、誠にありがとうございました。この一年間、新型コロナウイルスの影響でＰＴＡ活動にも様々な支障がありましたが、ここに第一二三号ＰＴＡ通信をお届けすることができました。保護者の皆さまのご理解とご協力があってこそと存じます。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

軽井沢高校 ＰＴＡ通信

発行
長野県軽井沢高等学校
ＰＴＡ教養部
軽井沢１３２３－４３

人と会うことの大切さ

ＰＴＡ会長　平澤　美由紀

昨年の今頃、春休みになれば落ち着いているだろう、まだ。ＧＷにはさすがに：毎年混むのが当たり前だった車のいないＲ18バイパスを目の当たりにして、事の深刻さを感じる反面、ＧＷ出勤時に通り過ぎるだけの桜を立ち止まって見れる貴重な時間であり、でもどこか心から満たされないような安心できない時間でもありました。

まだまだアルコールとマスクが手放せない日々が続き、今年度ＰＴＡ活動、会議もほぼ中止になり皆様には書面でのご挨拶のみで申し訳ございません。

学校に出向く事も少なくなった中、２回ほど、軽高会議に出席させていただきました。学校の中は変わらず賑やかな高校生のパワーに安心するのと同時に、会議はコロナ対策としてリモートの準備がされていて先生達にも感心です。

高校生が今思っている事、学校生活で必要なもの、事の色々を投げかける姿を見て、さすが東信地区ではなかなかない貴重な会議だという事と、それに同席させて頂き、人の顔を見ながら話す、〝会って話す〟という事の大切さを改めて感じた日でもありました。

人と関わり合うって、時にはストレスもあります。

ＳＮＳでは会わなくても繋がっていられる。でも打つ時にここは冷淡にならない様に伝えたい、絵文字で感情表現も必要です。意外に文字は文章に気を遣ったり誤解も時にはあるし、顔を見ないから言いづらい事を文字で伝えるメリットもある。

ＳＮＳよりももっと、ＴＥＬの方が耳から入る声から感情もより伝わりわかりやすいし逆もある。それ以上に人と会って話す、食事をする、みんなで行事をこなす、楽しみもあればめんどくさいことだってたまにはあります。

ＳＮＳも今はなくてはならないツールです。うまく取り入れつつ、囚われすぎず、今求められるコミュニケーション能力を日々人との関わり合いの中で培い、軽高生が将来、社会の中で発揮する姿を楽しみにしています。

令和二年度を振り返って

学校長　下井　一志

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症によって、学校の教育活動が大きな変化と対応を迫られた年でした。

始業式と入学式が終わって一週間足らずで臨時休業となり、電話及びオクレンジャーによる健康観察、自宅でできる教材の作成と発送、リモート会議システムの職員研修などを行いながら、五月の学年別分散登校を経て、ようやく六月に学校を再開することができました。保護者の皆様には、その間、お子様の生活や健康、学習などについて、たいへんご心配をおかけしました。残念ながらＰＴＡ総会も中止となり、旧役員の皆様のご慰労も十分にすることができませんでした。

そのような状況でしたが、例年実施している生徒、教職員、保護者・地域の皆様による「三者でつくる軽高会議」にＰＴＡ役員の皆様を中心に参加していただき、学校の課題や改善策について活発な議論をしていただきました。また、保護者対象の学校アンケートをスマートフォンを通して実施したところ、例年になく多くのご意見や励ましの言葉をいただきました。職員一同大変ありがたく思っております。今後もこうした機会を大切にして、保護者の皆様とともにより良い軽井沢高校づくりに職員一同励んでまいります。

現在、軽井沢高校は、学校に併設の「軽井沢町学習センター」など軽井沢町の支援を得ながら、より魅力ある学校に生まれ変わろうと取り組んでおります。本年度は経済産業省の「未来の教室」モデル校に指定され、一人一台端末を活用した生徒一人ひとりに合った学びの仕組の構築や、デュアルシステム・就業体験などを活用しての課題解決型の学びに取り組んでおります。生徒一人ひとりが生き生きと学び、成長できる学び舎となるよう、今後も引き続きご理解とご協力、そして忌憚ないご意見をよろしくお願いいたします。

卒業学年担任より

『はじまり』

三年一組担任　新井　雅人

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

３年間を振り返ってみると、長いようで短く、あっという間に過ぎていきました。怒濤のように過ぎ去った日々の中で、子どもたちは大きく成長していったことを、今強く感じています。また担任としても、まるで一つの物語の中にいるような、そんな経験をさせてもらいました。

４月からはそれぞれが違う道を歩んでいきますが、その道中では困難にぶつかることもあると思います。それでもめげずに一歩、二歩、三歩と「自信を持って」前に進んでいくことを願っています。卒業という節目を迎え、今後みなさんがどんな活躍をしていくのか、今から楽しみで仕方がありません。

卒業生のみなさん、卒業とは終わりではなく、輝かしい未来の「はじまり」です。これからが楽しみですね。期待に胸を膨らませ、自分の人生を歩んでいってください。

『「今」を生きる』

三年二組担任　竹平　愛恵

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。高校三年間という短くも濃い時間を一緒に過ごすことができたこと、嬉しく思います。一人一人の成長に驚き、優しさに助けられ、何気ない一言に励まされ、充実した三年間を過ごすことができました。

「未来はいつも現在にある」。そんな話を最後にしました。「未来」は「現在」の考えや行動によって創り出されます。

高校三年間皆さんと一緒に過ごす中で、たくさんのことに悩む姿を見ました。それと同じくらい、素晴らしい笑顔で過ごす姿を見ました。一生懸命に毎日を過ごす姿を見ました。「今」はその結果です。どうかこれからも納得の「未来」を掴むため、「今」を一生懸命、自分に、他人に優しく生きていってください。

最後になりますが、保護者の皆さまには心から感謝申し上げます。担任として至らない点の多くをご家庭で支えていただきました。三年間担任を務めることができたのは、保護者の皆さまのご理解、ご協力があってのことです。本当にありがとうございました。

『自分で決めた道だ！』

三年三組担任　飯島　昌幸

三年前に学年通信の題名を「道」に決めました。目の前に閉ざされた道はない。生徒一人ひとりが、無限に存在する道の中から一つ一つを選んで進んでいく。自分のために、より良い道を進んでいってほしい。そんな願いを込めました。

保護者の皆さんのご協力もあり、ビタミン愛の入ったお弁当を持って、ほとんどの生徒が充実した高校生活を送り成長しました。この通信も「目の前には無限の可能性がある」「自分の道のために！」「自分の道を探そう」「自分の道は自分で決める！」「自分の道をつかみ取ろう！」そして最後はこれからの楽ばかりではない生活を激励する意味でつけました。

高校生活は三年間で終わりですが、保護者の方の十八年間の思いはどれほどの事かと思います。卒業して旅立つ子供たちに親の思いを伝えてください。

「自分で決めた道だ、歯を食いしばって頑張るしかないだろう！」

二十年後、三十年後に笑顔でいられるように願っています。

各学年より

「一年の終わりにあたって」

一学年主任　轟　律夫

二学期は新型コロナウィルスの感染状況がかなり落ち着いたこともあり、十月には強歩大会・生徒会の引継ぎ・校外学習・就業体験などの通例行事を行なうことができました。強歩大会では一年生から男子五名・女子四名が上位入賞を果たしました。一年生から生徒会の書記や副委員長が選出され、生徒会を動かす中核としての役割が与えられました。校外学習では松代の地下壕跡などを巡り、修学旅行の事前学習を行ないました。就業体験については、一月末に行なわれる総まとめとしての事業所提案会に向けてプレゼンテーションの作成及び練習を行っています。この学年は経済産業省の「未来の教室」実証事業の指定対象となっており、このプレゼンテーションは外部のメンター（指導役）が中心となってここまで進めてきました。この他、ISAKや風越学園との交流や二月十三日（土）に開催予定の「課題探究発表会」実行委員に自ら名乗りを上げてくれる生徒もおり、頼もしさを感じるようになってきました。

間もなく一年の締めくくりの時期を迎えます。新型コロナウィルスの状況が好転するまでまだ時間がかかりそうな情勢ではありますが、二年生への準備を着実に進めさせたいと思います。今年度のご理解とご協力ありがとうございました。

「三学年に向かって」

二学年主任　小林　嘉孝

残念ながら、拡大した新型コロナウィルス禍は収束せず、今年度が終わろうとしています。社会全体がさまざまな苦境に直面する中で、本校も予定の変更をくり返しながら、学びの場を維持することに苦心した一年間でした。二学年にとっては沖縄修学旅行を中止にせざるを得なかったことが大きな心残りとなりました。生徒たちにとっては自然、歴史、文化などの観点から見聞を広げ、平和について考える貴重な機会になったはずであろうことを思うと、残念でなりません。部活動、生徒会活動も世代交代しながらも多くの制約下にある状況です。

このような難しい状況にあっても、諸活動に前向きに取り組もうとしている生徒の姿があります。思うように活動できない場面が多い中で、気持ちがすさまずに建設的に学校生活をつくろうとする雰囲気を、どのように維持していくか、そのためにやるべきこと、できることは何か、を支援するのが私たち教職員に求められることだと感じています。

まもなく、三年生となり、進路活動も大事な時を迎えます。生徒たちが元気に、前向きに活動できる環境づくりに引き続きつとめていきたいと考えています。

各係より

「探究」と「選択」

進路指導主事　北村　卓也

新型コロナウィルスが我々の何を変えてしまったのか。政治、経済、医療、教育など、様々な立場を思い浮かべながらその影響を考えてみますが、まだはっきりとはしません。やはり本質的に人間は変化しておらず、「できていたことができなくなったときにどう立ち回ればよいのか、本能的に選びぬく力が人間にはある」という既知の事実が再確認されただけなのかもしれません。

どのように立ち回るか。その立ち回り方は正しいのか正しくないのか。それを都度判断するために必要なのが知識と体験です。ただそれを学ぶ順序にもきっと正解がありません。知識を身に付けてから体験に臨むのだっていい。その反対に体験でぶつかった課題を補正するために知識と向き合ってもいい。こんな時代だからこそ（今まで何度もこの台詞と出会ってきましたが、今ほど臨場感がある時代はありません）、行きつ戻りつ「探究」しながら社会を考えていく時間が、私たちに要求されているような気がします。

自分の人生が直線的になりすぎていないか。薄味になっていないか。手応えのある「選択」ができているか。それを判断するに相応しい知識と体験を、高校生活を通して積み上げてほしいと願っています。

〔進路内定状況　1月31日現在〕

	男	女	合計
大学	17	8	25
短大	2	5	7
専門学校	12	17	29
就職	19	9	28
未決定	7	6	13
合計	57	45	102